

(様式第10)

19 福井大第 1252 号  
令和元年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名  
福井大学長  
上田 孝典 (印)

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号
氏 名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福井大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地	電話(0776) 61-3111
---------------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器科                      ② 消化器科                      ③ 循環器科                      4 腎臓内科	
⑤ 神経内科                      6 血液内科                      7 内分泌内科                      8 代謝内科	
9 感染症内科                      10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科                      11 リウマチ科	
診療実績	
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、リウマチ科の診療内容は内科で提供している。	
アレルギー疾患内科またはアレルギー科の診療内容は呼吸器科で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科                      2 消化器外科                      3 乳腺外科                      4 心臓外科	
5 血管外科                      ⑥ 心臓血管外科                      7 内分泌外科                      8 小児外科	
診療実績	
消化器外科、乳腺外科、内分泌外科、小児外科の診療内容は外科で提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科                      ② 小児科                      ③ 整形外科                      ④ 脳神経外科                      ⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科                      ⑦ 産婦人科                      8 産科                      9 婦人科                      ⑩ 眼科                      ⑪ 耳鼻いんこう科
⑫ 放射線科                      13 放射線診断科                      14 放射線治療科                      ⑮ 麻酔科                      ⑯ 救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科                      2 矯正歯科                      3 口腔外科                      ④ 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科                      2 形成外科                      3 病理診断科                      4                      5
6                      7                      8                      9                      10
11                      12                      13                      14                      15
16                      17                      18                      19                      20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41 床	0 床	0 床	0 床	559 床	600 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	282 人	113 人	367.1 人	看護補助者	58 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	12 人	1 人	12.2 人	理学療法士	15 人	臨床検査技師	44 人
薬剤師	44 人	0 人	44.0 人	作業療法士	7 人	検査衛生検査技師	0 人
保健師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	6 人	その他	0 人
助産師	14 人	0 人	14.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看護師	703 人	25 人	719.2 人	臨床工学士	14 人	医療社会事業従事者	8 人
准看護師	0 人	0 人	0.0 人	栄 養 士	1 人	その他の技術員	7 人
歯科衛生士	1 人	1 人	1.7 人	歯科技工士	1 人	事務職員	182 人
管理栄養士	9 人	0 人	9.0 人	診療放射線技師	31 人	その他の職員	47 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	34 人	眼 科 専 門 医	7 人
外 科 専 門 医	22 人	耳鼻咽喉科専門医	15 人
精 神 科 専 門 医	7 人	放射線科専門医	15 人
小 児 科 専 門 医	18 人	脳神経外科専門医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	4 人	整形外科専門医	9 人
泌尿器科専門医	13 人	麻 酔 科 専 門 医	12 人
産 婦 人 科 専 門 医	13 人	救 急 科 専 門 医	12 人
		合 計	188 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 腰地 孝昭 ) 任命年月日 平成31年 4月 1日

平成24年4月～平成28年3月	副病院長 (医療安全担当)
平成28年4月～平成31年3月	病院長 (医療安全管理委員会委員長)
平成31年4月～現在	病院長 (医療安全管理委員会委員長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	494.0人	6.8人	500.8人
1日当たり平均外来患者数	933.8人	28.6人	962.4人
1日当たり平均調剤数	入院：800.1剤	外来：43.5剤	
必要医師数			109人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			17人
必要(准)看護師数			284人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	183.52 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数 10床	心電計	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	
			人工呼吸装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	心細動除去装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			その他の救急蘇生装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	ペースメーカー	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 335.91 m <sup>2</sup>		病床数 31床			
	[移動式の場合] 台数 台		病床数 床			
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積 50.82 m <sup>2</sup>					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	225 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体検査自動化総合システム		
細菌検査室	68 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動細菌検査システム		
病理検査室	125 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動薄切装置、自動染色装置		
病理解剖室	55 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台		
研究室	4,686 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	リアルタイム定量PCR装置		
講義室	357 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	426人
図書室	1,861 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	21室	蔵書数	136,297冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	83.8%	逆紹介率	63.9%
算出根拠	A：紹介患者の数	10,754人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,523人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,734人	
	D：初診の患者の数	14,908人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
伊藤 透	金沢医科大学病院 医療安全部	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ 法律事務所		法律に関する識見を有する者	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
草桶 秀夫	前福井工業大学教授		医療を受ける者の立場から意見を延べることができる者	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
安川 繁博	福井県医師会副会長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
				<input type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
公表の方法	
福井大学医学部附属病院ホームページに掲載	





## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	術中腹腔内温熱化学療法(HIPEC)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 大腸癌腹膜転移及び腹膜偽粘液腫を対象に治療を行っている。腹膜転移以外の切除不能因子の無い症例に対して、原発巣切除、可及的播種巣切除、リンパ節郭清等を行った後に、シスプラチン、エトポシド、マイトマイシンCを混和した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を灌流している。通常の化学療法では効果がない症例でも有効な治療効果が得られている。			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するBRCA1、BRCA2遺伝子検査	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 乳癌卵巣癌の家族癌が濃厚な乳癌卵巣癌患者に対して遺伝カウンセリングと、術後希望者にBRCA1またはBRCA2遺伝子検査を行う。抗癌剤/オラパリブの選択、予防的卵巣切除、血縁者の乳癌卵巣癌検診を行う。			
医療技術名	FES-PET検査による乳癌患者における内分泌治療効果予測に関する研究	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陽性の転移再発乳癌に対してエストロゲンを用いたPET検査を施行し、内分泌治療効果を予測する。			
医療技術名	Her2陽性原発乳癌のTopoisomeraseIIA発現による術前・術後補助化学療法の個別化治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 Her2陽性原発乳癌組織を免疫染色にてTopoisomeraseIIA発現を調べ、陽性の場合にはアントラサイクリン系抗がん剤を投与し、陰性の場合には、プラチナ系またはタキサン系抗がん剤をTrastuzumabに併用して投与すると当科24例では再発例を認めていない。			
医療技術名	NCCオンコパネル遺伝子検査	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 高度先進医療に登録された再発膀胱癌、再発肺がん患者に対して、NCCオンコパネル遺伝子検査を施行し、指摘薬剤選択を行った。また、BRCA2胚細胞系列遺伝子変異を認めた患者家族に遺伝カウンセリングを施行した。			
医療技術名	骨盤骨折の治療におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 重度外傷である骨盤骨折の観血的治療において、ナビゲーションシステムによる支援を行うことで、より安全かつ正確な手術を行うことができる。			
医療技術名	側方進入椎体間固定(XLIF/OLIF)を用いた低侵襲脊椎手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 特別な開創器を用いることにより通常法よりも低侵襲に固定術や制動術を行うことが出来る。			
医療技術名	悪性骨・軟部腫瘍に対する術中体外放射線照射自家骨移植を用いた患肢温存手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 骨悪性腫瘍や軟部肉腫が骨に進展している場合、腫瘍と合併切除した骨に術中放射線照射を行い、腫瘍細胞を死滅させた後、その骨を再度骨欠損の再建に用いる。			
医療技術名	脊髄内視鏡検査	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 脊髄腫膜欠損を伴う脳表へモジデリン沈着症に対して脊髄内視鏡を使用して硬膜欠損の有無を部位を調べる。			
医療技術名	くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する髄腔内薬物投与療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 くも膜下出血に対して脳血管内治療を施行した患者に術後Tpa製剤(90万単位/1.5ml)を腰椎ドレーンより髄腔内に緩徐に投与する。			
医療技術名	FES-PET/MRIによる乳癌リンパ節転移の診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 16α-[18F]fluoro-17β-estradiol(18F-FES)を用いたPET/MRI検査によりエストロゲン受容体陽性乳癌のリンパ節転移や遠隔転移を診断する。			

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	FLT-PET/MRIによる骨髄不全症の鑑別	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要			
3'-deoxy-3'-[18F]fluorothymidine (18F-FLT)を用いたPET/MRIにより骨髄のTK-I活性を評価し骨髄不全症の鑑別を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	20
2	筋萎縮性側索硬化症	14	57	特発性拡張型心筋症	10
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	3
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	17
6	パーキンソン病	85	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	20
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	29	66	IgA腎症	6
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	13
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	28	68	黄色靱帯骨化症	27
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	5	69	後縦靱帯骨化症	78
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	26
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	42
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	4
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	23	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	1
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	11	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	29	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	7
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	33
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	26
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	36
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	6
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	1
34	神経線維腫症	11	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	10	90	網膜色素変性症	19
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	5	93	原発性胆汁性肝硬変	9
39	中毒性表皮壊死症	3	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	2
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	36
42	結節性多発動脈炎	0	97	潰瘍性大腸炎	64
43	顕微鏡的多発血管炎	6	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	4	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	1	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	68	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	30	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	66	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	15	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	14	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	4	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	4	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクトネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	6	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算2イ
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・入退院支援加算1及び3(地域連携診療計画加算)(入院時支援加算)
・特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)	・認知症ケア加算1
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・地域歯科診療支援病院入院加算
・医師事務作業補助体制加算1(50対1)	・特定集中治療室管理料2(注4 早期離床・リハビリテーション加算)
・急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割未満)	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)(新生児)
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算2)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護補助加算2	・小児入院医療管理料3及びプレイルーム加算
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算及び抗菌薬適正使用支援加算)	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算1	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・遺伝学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・精密触覚機能検査
・がん患者指導管理料イ	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ロ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん患者指導管理料ハ	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来緩和ケア管理料	・検体検査管理加算(IV)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・遺伝カウンセリング加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・胎児心エコー法
・院内トリアージ実施料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・ヘッドアップティルト試験
・外来放射線照射診療料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ニコチン依存症管理料	・神経学的検査
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・補聴器適合検査
・がん治療連携計画策定料、がん治療連携指導料	・ロービジョン検査判断料
・排尿自立指導料	・コンタクトレンズ検査料1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・内服・点滴誘発試験
・薬剤管理指導料	・画像診断管理加算3
・検査・画像情報提供加算 及び 電子的診療情報評価料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料2	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・心臓MRI撮影加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・乳房MRI撮影加算

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・小児鎮静下MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・頭部MRI撮影加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腫瘍脊椎骨全摘術
・外来化学療法加算1	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
・無菌製剤処理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)
・運動器リハビリテーション料(I)	・羊膜移植術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・緑内障手術[緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)]
・がん患者リハビリテーション料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・網膜再建術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工中耳植込術
・医療保護入院等診療料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)及び内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・レーザー機器加算	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用法)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・手術用顕微鏡加算	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・歯科技工加算1及び2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・組織拡張器による再建手術[乳房(再建手術)の場合に限る。]	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12並びに歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に掲げる手術の深夜加算1
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術-胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)-
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・輸血管理料 I
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術等	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・胆管悪性腫瘍手術[膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。]	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・体外衝撃波胆石破碎術	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	・麻酔管理料(I)
・体外衝撃波膵石破碎術(一連につき)	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・外来放射線治療加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・高エネルギー放射線治療
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・同種死体腎移植術	・画像誘導放射線治療加算(I-GRT)
・生体腎移植術	・定位放射線治療
・膀胱水圧拡張術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・病理診断管理加算1
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12並びに歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に掲げる手術の休日加算1	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12並びに歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に掲げる手術の時間外加算1	・



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
抗がん薬耐性分子病態の系統的薬理解析に基づく急性白血病の新救済治療戦略の確立	山内 高弘	内科学(1)	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
スプライソソーム遺伝子LUC7L2の機能不全に基づく骨髄悪性腫瘍発症機序の解明	細野 奈穂子	血液・腫瘍内科	1,300,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝臓がんにおける循環腫瘍細胞検出系の確立	大藤 和也	内科学(2)	1,400,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Rho-ROCK阻害薬によるタウ蛋白オリゴマー形成抑制機構の解明	濱野 忠則	内科学(2)	800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
記憶・情動障害を主徴とする辺縁系脳炎型橋本脳症の分子免疫病態の解明	松永 晶子	脳神経内科	1,400,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃癌におけるオートファジーの機能解析と予防への応用	大谷 昌弘	消化器内科	1,400,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アンジオテンシンIV受容体の新規高感度測定系による分子遺伝学的ならびに臨床的評価	此下 忠志	内科学(3)	1,200,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪滴による心筋Gap junctionリモデリング機序の解明	鈴木 仁弥	内分泌・代謝内科	1,400,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
IgG4関連肺疾患の病変形成に関与するTh2サイトカイン阻害の影響	早稲田 優子	呼吸器内科	900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
間質病変の進展抑制におけるFSP1を介したポドサイトー尿管上皮細胞連関の重要性	岩野 正之	腎臓病態内科学	3,600,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
レドックス破綻からアプローチする新たな急性腎障害の発症修復メカニズムの解明	糟野 健司	腎臓病態内科学	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規腎病理概念IgM形質細胞尿管間質性腎炎の疾患概念の確立と病態機序の解明	高橋 直生	腎臓内科	1,200,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸内細菌叢が産生する短鎖脂肪酸の腎保護メカニズムの解明と新たなCKD治療法の確立	三上 大輔	腎臓内科	1,300,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
末梢血単核球膜型マトリックス分解酵素発現を用いた冠動脈イベントリスクの層別化	宇随 弘泰	循環器内科学	1,200,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PAR1の消化管癌浸潤・転移における関与の解析とその制御の確立	廣野 靖夫	消化器外科	1,300,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌におけるProkineticin2因子の臨床応用に向けた検討	呉林 秀崇	消化器外科	1,500,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
血小板由来内皮細胞成長因子の抗動脈硬化作用を用いた小口径人工血管開存性向上の研究	高森 督	外科学(2)	1,800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
膀胱からの水再吸収、アクアポリン分子は夜間多尿の解決策と成り得るか	横山 修	泌尿器科学	2,800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎癌におけるmicroRNA-204によるオートファジー制御の治療効果	伊藤 秀明	泌尿器科学	900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生活習慣病に伴う難治性LUTSの克服:慢性炎症と組織リモデリングに着目して	関 雅也	泌尿器科学	2,100,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 20 件

(様式第3)

### 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

#### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経可塑性の阻害を旨とした脊髄疾患由来排尿障害に対する新規治療ストラテジーの構築	山内 寛喜	泌尿器科学	1,700,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
夜間頻尿の変動はその関連疾患の変化を察知する代用マーカーとなりうるか？	青木 芳隆	泌尿器科	800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
微小乳頭型膀胱癌を用いたMUC1がPD-L1へ及ぼす影響	品川 友親	泌尿器科	1,300,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
マウスを用いたアトピー性皮膚炎や魚鱗癬の胎児治療の確立	知野 剛直	皮膚科学	900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
乾癬の病態におけるデルモカインβ/γの役割の解明	徳力 篤	皮膚科学	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
硬化性萎縮性苔癬の細胞外基質を標的とする免疫異常の病態解明と分子標的治療への応用	宇都宮 夏子	皮膚科	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
炎症性皮膚疾患のバリア機能異常を反映する新規バイオマーカーの探求と臨床応用の検討	宇都宮 慧	皮膚科	1,300,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
抗線維化作用を有する新規化合物を用いた強皮症の治療開発	小泉 遼	皮膚科	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
術後遷延性疼痛における脳内マクロファージの役割の解明	中井 國博	形成外科	1,500,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
成長期における頭蓋顎顔面骨に及ぼすレチノイン酸の役割の解析	峯岸 芳樹	形成外科	1,200,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
後縦靭帯骨化症における内軟骨性骨化に関与する因子とメカニカルストレスの影響の検討	杉田 大輔	整形外科	1,500,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄障害性疼痛におけるCCL21および活性化ミクログリアの動態解析と治療開発	平井 貴之	整形外科	1,200,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
圧迫性頸髄症・頸髄損傷患者に対する11C-PK11195-PET/MRI試験	北出 誠	整形外科	900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
CD271陽性骨髄幹細胞の軟骨再生能および抗炎症作用の基礎的研究	宮崎 剛	整形外科	600,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
手部・足部の変形疾患に対する3次元積層カスタムインプラントに関する基礎的研究	大木 央	整形外科	2,800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
網膜神経節細胞のミトコンドリア動態と細胞死誘導機構の相関性解明とその臨床応用	三宅 誠司	眼科学	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
エピゲノム制御による糖尿病眼合併症に対する新たな治療戦略基盤の確立	松村 健大	眼科学	900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
緑内障視神経症の病態を断ち切る画期的な手術手技の確立	稲谷 大	眼科学	3,200,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病網膜症におけるエピジェネティックな制御機構の解明による新しい病態概念の確立	高村 佳弘	眼科学	1,170,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎における細菌叢の解析と短鎖脂肪酸の影響に関する検討	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	3,100,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 20 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ORMDL3がアレルギー性鼻炎に与える影響についての研究	扇 和弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝子導入による顔面神経軸索再生の試み	岡本 昌之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
凝固、線溶系の制御からみた好酸球性副鼻腔炎の病態解明と新規治療法の開発	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	700,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
早期舌扁平上皮癌における後発頸部リンパ節転移予測の新規マーカーの解析	伊藤 有未	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
モデルマウスを用いた花粉-食物アレルギーの病態解明	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,700,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎におけるペリオステンの重要性を検討する研究	二之宮 貴裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎における短鎖脂肪酸の機能解析	意元 義政	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
カテキンによる血管内皮増殖因子受容体の分解機構解明と口腔癌分子標的薬治療への応用	吉村 仁志	歯科口腔外科学	800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
漢方薬“ヨクイニン”とその有用成分を応用した副作用の少ない口腔癌治療法の確立	吉田 寿人	歯科口腔外科	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノ粒子を利用した食物アレルギーの経皮免疫療法	大嶋 勇成	小児科学	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノ粒子を用いた分化誘導療法による新たな神経芽腫治療法の開発	鈴木 孝二	小児科学	1,400,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
発達性ディスレクシアの神経基盤の解明と早期発見・介入の試み	巨田 元礼	小児科	1,400,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胎児・新生児期の生体リズム評価による自閉スペクトラム症の病態解明	小坂 拓也	小児科	1,900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
キレる子どもの神経基盤の解明と有効な包括的対支援システムの構築	川谷 正男	小児科	1,400,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノ粒子を用いた薬物輸送システムの開発: 神経芽腫がん細胞の分化誘導療法	吉川 利英	小児科	1,100,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
皮膚免疫応答の制御による、食物アレルギーの感作抑制と免疫療法への応用	川崎 亜希子	小児科	1,900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Radiogenomics法を用いた新規子宮肉腫治療バイオマーカーと治療法の開発	吉田 好雄	産科婦人科学	7,100,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
卵巣がん病態における生体内微量元素の機能と役割の体系的解析	吉田 好雄	産科婦人科学	2,200,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮頸がんの放射線性腸炎と内臓脂肪の関連性解明	杉田 元気	産科婦人科学	600,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
FDG-PETテクスチャ解析法を用いた新たな子宮肉腫予後予測バイオマーカーの開発	山本 真	産科婦人科	700,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 20 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
抗癌剤抵抗性卵巣癌のカルシウム伝達とミトコンドリア動態に着目した治療戦略の開発	津吉 秀昭	産科婦人科	900,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
間葉系幹細胞からの前顆粒膜細胞の誘導-体外培養系での卵子獲得を目指して-	宮崎 有美子	産科婦人科	1,000,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
若年子宮体癌の妊孕性温存療法に対する非侵襲的治療効果判定法および抵抗性機序の解明	山田 しず佳	産科婦人科	900,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
加齢による精子・卵子の妊孕能低下とミトコンドリア品質管理システムの関連	折坂 誠	産科婦人科	1,300,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
情動変化を呈したモデル動物における酸化ストレスの全脳的評価	水野 智之	精神医学	700,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
社会的孤立の負荷期間延長は、うつ状態の増悪ではなく、躁状態を引き起こすか?	小俣 直人	神経科精神科	1,000,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
精神疾患と創造性: 神経ネットワーク理論に基づく神経基盤の解明	上野 幹二	神経科精神科	400,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
フルマゼニルPET/MRIを用いたくも膜下出血後の高次脳機能障害メカニズムの解明	東野 芳史	脳脊髄神経外科学	300,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ラット慢性進行性局所脳虚血モデルの新規作成と酢酸PETを用いたグリア代謝	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学	1,200,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
クラゲコラーゲンを利用した人工硬膜の作成とその性能評価	小寺 俊昭	脳脊髄神経外科	400,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳表ヘモジデリン沈着症ラットモデルの作成	有島 英孝	脳脊髄神経外科	1,200,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳虚血下のグリア細胞機能の可視化とその機能の解明	常俊 顕三	脳脊髄神経外科	1,500,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
左心室拡張末期容量(Ved)のモニタによる心前負荷調節機序の解明	重見 研司	麻酔・蘇生学	1,500,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
CBB法を用いたイオンチャネルに対する麻酔薬の作用機序の解明	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	2,000,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
麻酔薬応答能の個人差に関する新規薬力学的アプローチ: 生体膜構成脂質の機能	溝上 真樹	麻酔科蘇生科	1,200,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
産科領域における非造影灌流MRI(ASL法)の開発と臨床応用の確立	小坂 信之	放射線医学	1,200,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
動脈磁気標識法(ASL)による新たなMRI脳機能画像の開発と臨床応用	木村 浩彦	放射線医学	1,200,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アルツハイマー病患者におけるPET酸化ストレスイメージングによる病態解明	井川 正道	地域高度医療推進講座	1,000,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄障害性疼痛の分子・細胞病態解明とニューロイメージング評価法の開発	中嶋 秀明	地域高度医療推進講座	1,000,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ライソゾーム酸性リパーゼ活性からみたオートファジー障害の脂肪性肝疾患への関与	根本 朋幸	地域高度医療推進講座	1,400,000	⑩補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 20 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規腎疾患マーカーとしての血中・尿中アンジオポエチン様蛋白4の解析と治療薬の探索	鳥居 国雄	検査部	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
網羅的解析によるILC2活性化に伴う鼻粘膜炎症増悪因子の同定	森川 太洋	集中治療部	1,700,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
CMLにおけるシヤペロン機能を標的としたTKI耐性克服のための新治療戦略	松田 安史	輸血部	1,400,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳-末梢神経Dual stimulationの脳脊髄イメージングと動作解析研究	久保田 雅史	リハビリテーション部	300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ADHD患者の運動障害に対する定量的な評価方法の確立	成瀬 廣亮	リハビリテーション部	400,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
急性大動脈解離における神経筋電気刺激を用いた新たなリハビリテーションプログラム	野々山 忠芳	リハビリテーション部	500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸酸化異常症代謝プロファイル解析による高精度診断法の確立	湯浅 光織	総合周産期母子医療センター	1,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
安静時機能的MRIを用いたADHDにおける神経ネットワークと遺伝子の関連解析	水野 賀史	子どものこころの発達研究センター	1,800,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
愛着関連障害と発達障害の判別システム:中間表現型を用いた研究	滝口 慎一郎	子どものこころの発達研究センター	1,300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PET所見に基づく自閉症・シナプス膜移行異常仮説の検証	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	3,900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アロペアレンティング状況が子の社会性発達および養育者のメンタルヘルスに及ぼす影響	藤澤 隆史	子どものこころの発達研究センター	800,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
発達科学と神経科学の融合によるヒト発達の中間表現型のシステム開発	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	2,500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
社会的情報への注目が自閉スペクトラム症の言語発達と社会性発達に与える影響の探求	藤岡 徹	子どものこころの発達研究センター	500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸肝循環の脱抱合メカニズムにおける薬物相互作用の分子機構解明	古俵 孝明	薬剤部	900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
エトポシドの個別化医療に向けた薬物動態学的検討	根来 寛	薬剤部	490,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
固形腫瘍患者における血流感染症の細菌学的変遷と適切な抗菌薬治療に関する調査研究	塚本 仁	薬剤部	400,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PNSと他の看護提供方式による患者満足度と看護師の職務満足度に関する調査研究	江守 直美	看護部	900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性炎症粘膜におけるTRP受容体ファミリーの発現とその機能解析	徳永 貴広	医学研究支援センター	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎の鼻ポリープにおける脂肪酸代謝解析	坂下 雅文	医学研究支援センター	1,300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
焼却滅菌に着眼した新発想空気清浄化装置による病院環境のリスクマネジメント	岩崎 博道	感染制御部	800,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 20 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
医療安全院内研修会の有効性に関するエビデンスの構築と応用	北浜 紀美子	医療安全管理部	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳内分子動態解析による認知症発症機序の解明と早期診断への応用	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	5,500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
アルツハイマー病に対する粒子線・オージェ電子コンビネーション療法の開発	清野 泰	高エネルギー医学研究センター	2,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
発達障害の病態解明・治療法開発に資するPET分子イメージングプローブの開発	清野 泰	高エネルギー医学研究センター	5,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
PET/MRIによるエストロゲン依存性腫瘍の受容体発現と酸化ストレスの関連性解明	辻川 哲也	高エネルギー医学研究センター	500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
酸化的ハロゲン化反応を用いた放射性同位元素の迅速標識法の開発	牧野 顕	高エネルギー医学研究センター	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
在宅緩和ケア質向上のための地域連携パス普及促進に関する研究	児玉 麻衣子	がん診療推進センター	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
細胞周期チェックポイントと抗アポトーシスを標的とする再発白血病の新救済治療戦略の確立	山内 高弘	内科学(1)	500,000	補 委	一般社団法人日本血液学会
抗アポトーシスを標的とする抗腫瘍性核酸アナログ耐性白血病の克服	山内 高弘	内科学(1)	700,000	補 委	公益財団法人 痛風財団
獲得免疫反応の賦活化により核内HBV cccDNAを排除する手法の開発	中本 安成	内科学(2)	8,623,077	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
NGS技術を用いたC型肝炎のHLAクラスII分子免疫に関する病態解析	中本 安成	内科学(2)	1,538,462	補 委	国立大学法人山梨大学
インスリン製剤とシタグリブチン併用による有用性の検討ー前向き観察研究ー	此下 忠志	内科学(3)	269,234	補 委	(公財)日本糖尿病協会
特発性間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究(NEJ030)	石塚 全	内科学(3)	49,848	補 委	特定非営利活動法人 North East Japan Study Group
実地臨床におけるエベロリムス溶出性ステントとシロリムス溶出性ステントの有効性および安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験:長期追跡試験【<RESET>Randomized Evaluation of Sirolimus-eluting versus Everolimus-eluting Stent Trial:Extended Follow-up Study】	宇随 弘泰	循環器内科学	7,693	補 委	(財)生産開発科学研究所
本体研究 「StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験」 付随研究 「StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 付随研究」	五井 孝憲	外科学(1)	33,230	補 委	(財)がん集学的治療研究財団

小計 15 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
前立腺がん患者の診断時背景因子と初期治療および治療経過に関する実態調査研究	伊藤 秀明	泌尿器科学	86,553	補 委 特定非営利活動法人 J-Cap研究会
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	長谷川 稔	皮膚科学	76,924	補 委 国立大学法人熊本大学
オルガノイドモデルを用いた肉腫肺転移メカニズム解明	松峯 昭彦	整形外科	5,000,000	補 委 公益財団法人 上原 記念生命科学財団
緑内障に関するデータ収集・解析集の作成	稲谷 大	眼科学	300,000	補 委 国立大学法人筑波大学
難治性ダニアレルギー性鼻炎、難治性スギ花粉症の定義付けとガイドラインへの反映	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	11,200,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
AERDの好酸球性鼻炎におけるプロテオーム解析と特異的蛋白の機能研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	1,500,000	補 委 (独)国立病院機構相模 原病院
分化型甲状腺癌を対象としたレンパチニブの治療効果探索のためのコホート研究	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	16,616	補 委 公益財団法人パブリック ヘルスリサーチセンター
①MELAS/MELAIに対するビルビン酸療法の長期投与試験の実施と総括報告書作成 ②新規バイオマーカーGDF15の体外診断薬としての開発研究 ③ミトコンドリア病の診断・治療アルゴリズムの策定	畑 郁江	小児科学	250,000	補 委 学校法人久留米大学
福井県周産期健康調査事業	吉田 好雄	産科婦人科学	398,472	補 委 福井県
注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発 【分担】発達障がい診断システムのエビデンスとしてのデータ収集	小坂 浩隆	精神医学	5,000,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ロボット麻酔システムの開発	重見 研司	麻酔・蘇生学	8,658,720	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ネットワーク自動生業技術を用いたクラウド救急医療連携システムの研究開発	木村 哲也	救急医学	7,780,000	補 委 総務省北陸総合通信 局
日本リハビリテーション医学会 平成30年度海外研修助成	北出 一平	リハビリテーション部	200,000	補 委 日本リハビリテーション 医学会
養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステム構築	友田 明美	子どものこころの発達 研究センター	2,455,000	補 委 国立研究開発法人 科学技術振興機構
養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステム構築	友田 明美	子どものこころの発達 研究センター	3,820,000	補 委 国立研究開発法人 科学技術振興機構
臨床薬理学研究助成	滝口 慎一郎	子どものこころの発達 研究センター	2,000,000	補 委 公益財団法人 臨床 薬理研究振興財団
国内外における医薬品等情報の提供実態に関する調査並びに情報システムのコンテンツの検討・運用サイトの改善を踏まえた提言	後藤 伸之	薬剤部	500,000	補 委 国立大学法人熊本大学

小計 17 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規結核菌抗原とDNAアジュバントを用いた成人肺結核に対するブースターワクチンの開発	岩崎 博道	感染制御部	7,000,000	補 ⑤委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ダニ媒介性細菌感染症の総合的な対策に向けた研究 【分担】国内発症リケッチア症の救命のための治療法開発	岩崎 博道	感染制御部	1,000,000	補 ⑤委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
感染予防管理にIoT/BD/AIを活用し、WHOが推奨する手指衛生を遵守する研究開発(181605001)	岩崎 博道	感染制御部	2,600,000	補 ⑤委 総務省北陸総合通信局
AMPA受容体標識PETプローブを用いた精神神経疾患横断的研究 (AMPA受容体標識PETプローブの製造体制の整備)	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	6,431,500	補 ⑤委 公立大学法人横浜市立大学
「全身骨髄TK1活性を可視化するFLT-PET/MRIによる骨髄不全症の病態解明」に関する研究助成	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	1,700,000	補 ⑤委 公益財団法人 武田科学振興財団
後縦靭帯骨化症の病態解明・治療法開発に関する研究	中嶋 秀明	地域高度医療推進講座	1,538,462	補 ⑤委 学校法人慶応義塾
「福井県地域包括ケアシステム」のためのクラウド型在宅療養情報共有システムとAIによる事象分析に関する研究開発	山村 修	地域医療推進講座	8,450,000	補 ⑤委 総務省北陸総合通信局
小児骨髄系腫瘍に対する標準的治療法の確立	谷澤 昭彦	がん専門医育成推進講座	200,000	補 ⑤委 国立大学法人京都大学
小児Ph染色体陽性白血病に対するチロシンキナーゼ阻害薬の適正使用に関する研究開発	谷澤 昭彦	がん専門医育成推進講座	200,000	補 ⑤委 学校法人慶応義塾

小計 9 件  
計 141 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ookura M, Hosono N, Tasaki T, 他	内科学(1)	Successful treatment of disseminated intravascular coagulation by recombinant human soluble thrombomodulin in patients with acute myeloid leukemia	Medicine (Baltimore). 2018 Nov (オンライン)	Original Article
2	Matsuda H, Hiramatsu K, Akazawa Y, 他	内科学(2)	Genetic polymorphism and decreased expression of HLA class II DP genes are associated with HBV reactivation in patients treated with immunomodulatory agents	J Med Virol. 2018 Apr;90(4):712-720	Original Article
3	Hamano T, Hayashi K, Shirafuji N, 他	内科学(2)	The Implications of Autophagy in Alzheimer's Disease	Curr Alzheimer Res. 2018 Oct;15(14):1283-1296	Original Article
4	Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, 他	脳神経内科	Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- $\beta$ aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy	Acta Neuropathol Commun. 2019 Jan;7(1):12	Original Article
5	Murata Y, Hiramatsu K, Yoshida Y, 他	消化器内科	Reactivation of intraabdominal tuberculous lymphadenopathy after drug-eluting beads transcatheter arterial chemoembolization in a patient with hepatocellular carcinoma	Clin J Gastroenterol. 2019 Feb;12(1):76-81	Original Article
6	Takegawa Y, Hiramatsu K, Murata Y, 他	消化器内科	Duplication cyst of the ileum presenting with severe anemia detected by double-balloon endoscopy	Endosc Int Open. 2018 Apr(オンライン)	Case report
7	Akazawa Y, Ohtani M, Nosaka T, 他	消化器内科	Long-term prognosis after biliary stenting for common bile duct stones in high-risk elderly patients	J Dig Dis. 2018 Oct;19(10):626-634	Original Article
8	Akazawa Y, Suzuki T, Yoshikawa T, 他	消化器内科	Prospects for immunotherapy as a novel therapeutic strategy against hepatocellular carcinoma	World J Meta-Anal.2019 Mar;7(3):80-95	Original Article
9	Zenimaru Y, Yamada M, Suzuki J, 他	内分泌・代謝内科	Hypopituitarism and Central Diabetes Insipidus Caused by Central Nervous System Lymphoma	Intern Med. 2018 Nov;57(22):3335-3336	Case report
10	Kadowaki M, Yamada H, Sato K, 他	呼吸器内科	Extracellular acidification-induced CXCL8 production through a proton-sensing receptor OGR1 in human airway smooth muscle cells: a response inhibited by dexamethasone	J Inflamm (Lond). 2019 Feb;16:4	Original Article
11	Kobayashi M, Mikami D, Uwada J, 他	腎臓内科	A short-chain fatty acid, propionate, enhances the cytotoxic effect of cisplatin by modulating GPR41 signaling pathways in HepG2 cells	Oncotarget. 2018 Jul;9(59):31342-31354	Original Article
12	Morikawa Y, Takahashi N, Kamiyama K, 他	腎臓内科	Elevated Levels of Urinary Extracellular Vesicle Fibroblast-Specific Protein 1 in Patients with Active Crescentic Glomerulonephritis	Nephron. 2019 Mar;141(3):177-187	Original Article
13	Hasegawa K, Miyazaki S, Morishita T, 他	循環器内科学	A Slower Heart Rate and Therapeutic Hypothermia Unmasked Early Repolarization Syndrome in a Ventricular Fibrillation Survivor	Int Heart J. 2019 Jan;60(1):185-188	Case report
14	Hasegawa K, Miyazaki S, Ishida T, 他	循環器内科学	Computed tomography in the prone position is a simple and useful technique to detect left atrial thrombi in persistent atrial fibrillation	J Cardiovasc Electrophysiol. 2018 Apr;29(4):632-633	Others

小計 14 件

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
15	Hasegawa K, Miyazaki S, Hisazaki K, 他	循環器内科学	Gastric Hypomotility After Luminal Esophageal Temperature Guided Second-Generation Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2018 Aug (オンライン)	Original Article
16	Hasegawa K, Miyazaki S, Kaseno K, 他	循環器内科学	Iatrogenic Palpitations during Exercise in a Patient with a Dual Chamber Implantable Cardioverter-Defibrillator and Lead Dysfunction	Int Heart J. 2019 Mar;60(2):462-465	Case report
17	Hasegawa K, Miyazaki S, Kaseno K, 他	循環器内科学	Idiopathic Giant Thrombus Formation in the Right Ventricular Apex: A Rare Complication After Radiofrequency Ablation	JACC Clin Electrophysiol. 2018 Aug;4(8):1117-1118	Case report
18	Hasegawa K, Kaseno K, Aiki T, 他	循環器内科学	Left atrial sarcoidosis as a substrate for peri-mitral atrial flutter: an unusual, underlying atrial disease	Eur Heart J. 2018 Aug;39(31):2912-2913	Case report
19	Hasegawa K, Morishita T, Miyayama D, 他	循環器内科学	Medical Castration is a Rare but Possible Trigger of Torsade de Pointes and Ventricular Fibrillation	Int Heart J. 2019 Jan;60(1):193-198	Case report
20	Hasegawa K, Miyazaki S, Kaseno K, 他	循環器内科学	Persistent Left Superior Vena Cava-Related Atrial Tachycardia: A Variant of Ridge-Related Re-Entry	JACC Clin Electrophysiol. 2018 Dec;4(12):1644-1646	Case report
21	Hasegawa K, Miyazaki S, Tada H	循環器内科学	Sequential unipolar endocardial and epicardial ablation for focal atrial tachycardia originating from the deep left atrial appendage	Europace. 2019 Jan;21(1):53	Case report
22	Hasegawa K, Miyazaki S, Kaseno K, 他	循環器内科学	Ultrahigh resolution activation mapping of a left atrial macroreentrant tachycardia using a Marshall bundle epicardial connection	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Mar;30(3):442-443	Original Article
23	Hisazaki K, Hasegawa K, Kaseno K, 他	循環器内科	Endothelial damage and thromboembolic risk after pulmonary vein isolation using the latest ablation technologies: a comparison of the second-generation cryoballoon vs. contact force-sensing radiofrequency ablation	Heart Vessels. 2019 Mar;34(3):509-516	Original Article
24	Sato Y, Morishita T, Uzui H, 他	循環器内科	Successful Percutaneous Coronary Intervention in a Double Aortic Arch With a Right Descending Aorta: Usefulness of 3-Dimensional Computed Tomography Angiography	JACC Cardiovasc Interv. 2018 Nov (オンライン)	Case report
25	Morishita T, Uzui H, Nakano A, 他	循環器内科	Association of plasma pentraxin-3 levels with coronary risk factors and the lipid profile: a cross-sectional study in Japanese patients with stable angina pectoris	Heart Vessels. 2018 Nov;33(11):1301-1310	Original Article
26	Morishita T, Sato Y, Fukuoka Y, 他	循環器内科	Mid-axillary pacemaker re-implantation after contralateral pocket infection in an emaciated elderly case	J Cardiol Cases. 2018 Jun;18(2):70-73	Case report
27	Kataoka T, Miyazaki S, Kaseno K, 他	循環器内科	Recruitment of Complete Right Bundle Branch Block by Permanent Para-Hisian Pacing	Int Heart J. 2019 Jan;60(1):189-192	Original Article
28	Kaseno K, Hisazaki K, Nakamura K, 他	循環器内科	The impact of the CartoSoundR image directly acquired from the left atrium for integration in atrial fibrillation ablation	J Interv Card Electrophysiol. 2018 Dec;53(3):301-308	Original Article

小計 14 件

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
29	Yoshida Y, Goi T, Kurebayashi H, 他	消化器外科	Prokineticin 2 expression as a novel prognostic biomarker for human colorectal cancer	Oncotarget. 2018 Jul;9(53):30079-30091	Case report
30	Kurebayashi H, Goi T, Morikawa M, 他	消化器外科	Positive Response to Dual BRAF and MEK Inhibition in a Case with BRAF Mutant Anorectal Malignant Melanoma	Clin Oncol Case Rep. 2019 Jan;2(1):1000114	Case report
31	Yokoi S, Maeda H, Nishino T, 他	乳腺・内分泌外科	Double primary recurrent human epidermal growth factor receptor 2-positive breast cancer and esophageal cancer that responded well to chemotherapy	Int Cancer Conf J. 2018 Oct;8(1):17-23	Case report
32	Inamura S, Ito H, Shinagawa T, 他	泌尿器科	Prostatic stromal inflammation is associated with bladder outlet obstruction in patients with benign prostatic hyperplasia	Prostate. 2018 Jul;78(10):743-752	Original Article
33	Hasegawa M, Ishikawa O, Asano Y, 他	皮膚科学	Diagnostic criteria, severity classification and guidelines of lichen sclerosus et atrophicus	J Dermatol. 2018 Aug;45(8):891-897	Original Article
34	Utsunomiya N, Oyama N, Chino T, 他	皮膚科	Dietary supplement product composed of natural ingredients as a suspected cause of erythema multiforme: A case report and identification for the confident false positivity of lymphocyte transformation test	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):234-239	Original Article
35	Miyanaga M, Iino S, Oyama N, 他	皮膚科	A rare case of chronic expanding haematoma in the occipital region mimicking a malignant soft tissue tumour	Australas J Dermatol. 2018 Nov (オンライン)	Case report
36	Takamura Y, Shimura M, Katome T, 他	眼科学	Effect of intravitreal triamcinolone acetonide injection at the end of vitrectomy for vitreous haemorrhage related to proliferative diabetic retinopathy	Br J Ophthalmol. 2018 Oct;102(10):1351-1357	Original Article
37	Takamura Y, Ohkoshi K, Murata T	眼科学	New Strategies for Treatment of Diabetic Macular Edema	J Ophthalmol. 2018 Aug;2018:4292154	Original Article
38	Kakimoto H, Takamura Y, Arimura S, 他	眼科	Effect of 0.05% Difluprednate Ophthalmic Emulsion on Proinflammatory Cytokine Levels After Retinal Laser Photocoagulation in Rabbits	J Ocul Pharmacol Ther. 2018 Jun;34(5):410-415	Original Article
39	Iwasaki K, Arimura S, Takahara Y, 他	眼科	Prospective cohort study of corneal endothelial cell loss after Baerveldt glaucoma implantation	PLoS One. 2018 Jul (オンライン)	Original Article
40	Yamada Y, Takamura Y, Matsumura T, 他	眼科	Posterior subtenon infusion of triamcinolone acetonide as adjunctive treatment to panretinal photocoagulation using pattern scan laser for diabetic retinopathy	Jpn J Ophthalmol. 2018 Nov;62(6):686-692	Original Article
41	Morioka M, Takamura Y, Yamada Y, 他	眼科	Flare levels after intravitreal injection of ranibizumab, aflibercept, or triamcinolone acetonide for diabetic macular edema	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2018 Dec;256(12):2301-2307	Original Article
42	Arimura S, Miyake S, Iwasaki K, 他	眼科	Randomised Clinical Trial for Postoperative Complications after Ex-PRESS Implantation versus Trabeculectomy with 2-Year Follow-Up	Sci Rep. 2018 Nov;8(1):16168	Original Article

小計 14 件

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
43	Narita N, Ito Y, Takabayashi T, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Suppression of SESN1 reduces cisplatin and hyperthermia resistance through increasing reactive oxygen species (ROS) in human maxillary cancer cells	Int J Hyperthermia. 2018 Dec;35(1):269-278	Original Article
44	Imoto Y, Takabayashi T, Sakashita M, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Combination therapy with montelukast and loratadine alleviates pharyngolaryngeal symptoms related to seasonal allergic rhinitis	J Allergy Clin Immunol Pract. 2019 Mar;7(3):1068-1070	Original Article
45	Imoto Y, Kato A, Takabayashi T, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Short-chain fatty acids induce tissue plasminogen activator in airway epithelial cells via GPR41&43	Clin Exp Allergy. 2018 May;48(5):544-554	Original Article
46	Kato Y, Takabayashi T, Sakashita M, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Expression and Functional Analysis of CST1 in Intractable Nasal Polyps	Am J Respir Cell Mol Biol. 2018 Oct;59(4):448-457	Original Article
47	Ninomiya T, Noguchi E, Haruna T, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Periostin as a novel biomarker for postoperative recurrence of chronic rhinosinitis with nasal polyps	Sci Rep. 2018 Jul;8(1):11450	Original Article
48	Yoshida H, Yoshimura H, Matsuda S, 他	歯科口腔外科	Effects of peritumoral bevacizumab injection against oral squamous cell carcinoma in a nude mouse xenograft model: A preliminary study	Oncol Lett. 2018 Jun;15(6):8627-8634	Original Article
49	Matsuda S, Yoshimura H, Yoshida H, 他	歯科口腔外科	Application of a Real-Time Three-Dimensional Navigation System to Dental Implant Removal: A Five-Year Single-Institution Experience	Journal of Hard Tissue Biology. 2018 Nov; 27(4):359-362	Case report
50	Matsuda S, Yoshimura H, Yoshida H, 他	歯科口腔外科	Mandibular metastasis as the first clinical indication of occult lung adenocarcinoma with multiple metastases: A case report	Medicine (Baltimore). 2018 Apr (オンライン)	Case report
51	Matsuda S, Yoshimura H, Sano K	歯科口腔外科	Oromandibular Dystonia-Related Temporomandibular Joint Osteoarthritis: A Case History Report	Int J Prosthodont. 2018 May/June;31(3):206-207	Case report
52	Ohta K, Yoshimura H, Ryoike T, 他	歯科口腔外科	Investigation of the Electric Handpiece-related Pneumomediastinum and Cervicofacial Subcutaneous Emphysema in Third Molar Surgery	Journal of Hard Tissue Biology. 2019 Jan;28(1):79-86	Case report
53	Igarashi A, Hata I, Yuasa M, 他	小児科	A case of an infant with extremely low birth weight and hypothyroidism associated with massive cutaneous infantile hemangioma	J Pediatr Endocrinol Metab. 2018 Dec;31(12):1377-1380	Original Article
54	Kawasaki A, Ito N, Murai H, 他	小児科	Skin inflammation exacerbates food allergy symptoms in epicutaneously sensitized mice	Allergy. 2018 Jun;73(6):1313-1321	Original Article
55	Kurokawa T, Onuma T, Shinagawa A, 他	産科婦人科学	The ideal strategy for cervical cancer screening in Japan: Result from the Fukui Cervical Cancer Screening Study	Cytopathology. 2018 Aug;29(4):361-367	Original Article
56	Shinagawa A, Kurokawa T, Yamamoto M, 他	産科婦人科学	Evaluation of the benefit and use of the new terminology in endometrial cytology reporting system	Diagn Cytopathol. 2018 Apr;46(4):314-319	Original Article
57	Mizuno T, Matsumoto H, Mita K, 他	精神医学	Psychosis is an extension of mood swings from the perspective of neuronal plasticity impairments	Med Hypotheses. 2019 Mar;124:37-39	Original Article

小計 15 件

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
58	Ueno K, Takahashi T, Higashima M, 他	神経科精神科	Delayed posthypoxic leukoencephalopathy following alcohol and psychotropic drug overdose: a case report	Clin Case Rep. 2018 May;6(6):1158-1165	Case report
59	Yamauchi T, Ohno M, Matsushita Y, 他	脳脊髄神経外科	Radiological characteristics based on isocitrate dehydrogenase mutations and 1p/19q codeletion in grade II and III gliomas	Brain Tumor Pathol. 2018 Jul;35(3):148-158	Original Article
60	Akazawa A, Kodera T, Awara K, 他	脳脊髄神経外科	Vestibular Schwannoma Surgery with Continuous Intraoperative Monitoring of Evoked Facial Nerve Electromyograms	No Shinkei Geka. 2018 Jul;46(7):593-598	Original Article
61	Matsuki Y, Mizogami M, Shigemi K	麻酔・蘇生学	Successful opioid dose reduction after ganglion impar block in a patient with postoperative micturition pain	Anaesthesia, Pain & Intensive Care.2019 Jan;22(3) :177-179	Original Article
62	Matsuki Y, Mizogami M, Shigemi K	麻酔・蘇生学	Sudden cardiac arrest due to coronary vasospasm in a patient with Wolff-Parkinson-White syndrome during brain surgery: a case report	JA Clinical Reports.2019 Feb;5:13	Review
63	Kosaka N, Fujiwara Y, Kurokawa T, 他	放射線医学	Evaluation of retained products of conception using pulsed continuous arterial spin-labeling MRI: clinical feasibility and initial results	MAGMA. 2018 Aug;31(4):577-584	Original Article
64	Kawano T, Grunau B, Scheuermeyer FX, 他	救急医学	In reply	Ann Emerg Med. 2018 Aug;72(2):229-231	Original Article
65	Kawano T, Grunau B, Scheuermeyer FX, 他	救急医学	Intraosseous Vascular Access Is Associated With Lower Survival and Neurologic Recovery Among Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest	Ann Emerg Med. 2018 May;71(5):588-596	Original Article
66	Kita A, Onoguchi M, Shibutani T, 他	放射線部	Influence of myocardial count on phase dyssynchrony analysis of gated myocardial perfusion single-photon emission computed tomography	Nucl Med Commun. 2019 Feb;40(2):124-130	Original Article
67	Kobayashi J, Fujimoto D, Murakami M, 他	集中治療部	A report of amelanotic malignant melanoma of the esophagus diagnosed appropriately with novel markers: A case report	Oncol Lett. 2018 Jun;15(6):9087-9092	Case report
68	Takahashi A, Nakajima H, Uchida K, 他	リハビリテーション部	Comparison of Mesenchymal Stromal Cells Isolated from Murine Adipose Tissue and Bone Marrow in the Treatment of Spinal Cord Injury	Cell Transplant. 2018 Jul;27(7):1126-1139	Case report
69	Iwasaki K, Sakai Y, Mori M, 他	病理部	Liquid-based cytology in the diagnosis of Langerhans cell sarcoma: A case report	Diagn Cytopathol. 2018 Sep;46(9):782-785	Case report
70	Yuasa M, Hata I, Sugihara K, 他	総合周産期 母子医療センター 他	Evaluation of Metabolic Defects in Fatty Acid Oxidation Using Peripheral Blood Mononuclear Cells Loaded with Deuterium-Labeled Fatty Acids	Dis Markers. 2019 Feb;2019:2984747	Original Article
71	Fujisawa TX, Shimada K, Takiguchi S, 他	子どものこころ 発達研究センター 他	Type and timing of childhood maltreatment and reduced visual cortex volume in children and adolescents with reactive attachment disorder	Neuroimage Clin. 2018 Jul;20:216-221	Original Article
72	Negoro Y, Yano R, Yoshimura M, 他	薬剤部	Influence of UGT1A1 polymorphism on etoposide plus platinum-induced neutropenia in Japanese patients with small-cell lung cancer	Int J Clin Oncol. 2019 Mar;24(3):256-261	Original Article

小計 15 件

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
73	Okazawa H, Tsujiikawa T, Higashino Y, 他	高エネルギー 医学研究センター	No significant difference found in PET/MRI CBF values reconstructed with CT-atlas- based and ZTE MR attenuation correction	EJNMMI Res. 2019 Mar;9(1):26	Original Article
74	Okazawa H, Higashino Y, Tsujiikawa T, 他	高エネルギー 医学研究センター	Noninvasive method for measurement of cerebral blood flow using O-15 water PET/MRI with ASL correlation	Eur J Radiol. 2018 Aug;105:102-109	Original Article
75	Tsujiikawa T, Tasaki T, Hosono N, 他	高エネルギー 医学研究センター	18F-FLT PET/MRI for bone marrow failure syndrome-initial experience	EJNMMI Res. 2019 Feb;9(1):16	Original Article
76	Tsujiikawa T, Narita N, Kanno M, 他	高エネルギー 医学研究センター	Role of PET/MRI in oral cavity and oropharyngeal cancers based on the 8th edition of the AJCC cancer staging system: a pictorial essay	Ann Nucl Med. 2018 May;32(4):239-249	Original Article
77	Tsujiikawa T, Tsuyoshi H, Kanno M, 他	高エネルギー 医学研究センター	Selected PET radiomic features remain the same	Oncotarget. 2018 Apr;9(29):20734-20746	Original Article
78	Miyazaki S, Kajiyama T, Watanabe T, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Additional cryoapplications at the pulmonary vein antrum using a 28-mm second-generation cryoballoon: a pilot study of extra-pulmonary vein ablation	Heart Vessels. 2018 Sep;33(9):1052-1059	Original Article
79	Miyazaki S, Hisazaki K, Kaseno K, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Atrial tachycardia with a short PQ interval: Focal atrial tachycardia originating from the vicinity of the block line	J Cardiovasc Electrophysiol. 2018 Oct;29(10):1448-1449	Case report
80	Miyazaki S, Kajiyama T, Watanabe T, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Atrioventricular conduction disturbance during pulmonary vein isolation using the second-generation cryoballoon - Vagal impact of cryoballoon ablation	Int J Cardiol. 2018 Aug;265:113-117	Original Article
81	Miyazaki S, Tada H	不整脈・心不全 先端医療講座	Complications of Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation	Arrhythm Electrophysiol Rev. 2019 Mar;8(1):60-64	Original Article
82	Miyazaki S, Kajiyama T, Hada M, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Does second-generation cryoballoon ablation using the current single short freeze strategy produce pulmonary vein stenosis?	Int J Cardiol. 2018 Dec;272:175-178	Original Article
83	Miyazaki S, Hasegawa K, Mukai M, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Epicardial connections via posterior interatrial bundles during atrial tachycardia	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Mar;30(3):438-439	Case report
84	Miyazaki S, Kajiyama T, Watanabe T, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Impact of electrical connections between ipsilateral pulmonary veins on the second- generation cryoballoon ablation procedure	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Jan;30(1):27-31	Original Article
85	Miyazaki S, Taniguchi H, Tada H, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Microembolic signals produced by a steam pop during human mitral isthmus linear ablation	Europace. 2018 Nov;20(FI_3):f383	Case report
86	Miyazaki S, Kajiyama T, Yamao K, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Silent cerebral events/lesions after second-generation cryoballoon ablation: How can we reduce the risk of silent strokes?	Heart Rhythm. 2019 Jan;16(1):41-48	Original Article
87	Miyazaki S, Hasegawa K, Kaseno K, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Why do not anatomical linear lesions achieve mitral isthmus conduction block? The importance of epicardial connections via the Marshall bundle	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Jan;30(1):134-135	Original Article

小計 15 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
88	Ikawa M, Kimura H, Kitazaki Y, 他	地域高度医療推進講座	Arterial spin labeling MR imaging for the clinical detection of cerebellar hypoperfusion in patients with spinocerebellar degeneration	J Neurol Sci. 2018 Nov;394:58-62	Original Article
89	Nakajima H, Takahashi A, Kitade I, 他	地域高度医療推進講座	Prognostic factors and optimal management for patients with cervical spinal cord injury without major bone injury	J Orthop Sci. 2019 Mar;24(2):230-236	Original Article
90	Yamaguchi T, Yamamura O, Hamano T, 他	地域医療推進講座	Premorbid physical activity is modestly associated with gait independence after a stroke: an exploratory study	Eur Rev Aging Phys Act. 2018 Dec;15:18	Original Article
91	Kitano F, Kinoshita K, Noriki S, 他	地域医療推進講座	Postmortem Intravascular Gas Caused by Antemortem Bacterial Sepsis	Intern Med. 2019 Feb;58(3):457-458	Case report
92	Noriki S, Ishida H	腫瘍病理学	Pitfall in interpretation of kappa coefficients, in reference to the disagreement between Dr Shinichi Watanabe and Drs Tsunemi and Hiruma concerning the efficacy of the Dermatophyte Test Strip	J Dermatol. 2018 Oct (オンライン)	Case report

小計 5 件  
計 92 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ 2. 倫理審査申請書類の作成について 3. 倫理審査の申請から委員会審査、承認まで 4. 研究計画の実施状況報告及び終了（中止）報告について 5. 重篤な有害事象及び不具合への対応 6. 倫理審査委員会に関する情報 7. 倫理審査申請に関する問い合わせ先	
③ 倫理審査委員会の開催状況	(委員会開催) 年 1 2 回 (委員長及び委員による迅速審査) 年 3 8 0 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 1. 趣旨、2. 委員会の設置、3. 組織、4. 申告書の提出等、5. 審査の方法、 6. 審査結果の報告、7. 指導等、8. 事務、9. 雑則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員	年 1 2 回

会の開催状況	
--------	--

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年15回
<p>・研修の主な内容</p> <p>福井大学臨床研究講習会</p> <p>1：平成30年4月18日</p> <p>「人を対象とする医学系研究に関する基礎知識と本学での手続きについて」</p> <p>医学研究支援センター 講師 渡邊 享平</p> <p>2：平成30年12月17日</p> <p>「遺伝子解析研究・遺伝医療に伴う倫理的課題」</p> <p>京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康管理学講座 医療倫理学・遺伝医療学分野</p> <p>教授 小杉 眞司</p> <p>3：平成31年3月6日</p> <p>「臨床研究を適正に実施するための手続きと注意点」</p> <p>医学研究支援センター 講師 渡邊 享平</p> <p>福井大学臨床研究講習会 (C-CAM webセミナー)</p> <p>1：平成30年4月27日</p> <p>「臨床研究の歴史と被験者保護・臨床研究における研究不正と行動規範」</p> <p>「研究実施にあたって考慮すべき倫理」</p> <p>名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 西脇 聡史</p> <p>2：平成30年6月25日</p> <p>「臨床研究方法論入門」</p> <p>名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 中枿 昌弘</p>	

3：平成30年7月4日

「ワクチン開発と接種の意識」

MSD株式会社メディカルアフェアーズ エグゼクティブディレクター 佐々木 津

4：平成30年8月3日

「臨床研究に関する法規制と指針」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 木下 文恵

5：平成30年9月21日

「臨床研究の計画と準備 実施医療機関の組織と運用」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 加藤 勝義

6：平成30年10月3日

「がんマスタープロトコル試験の実践」

東京大学大学院医学系研究科 生物統計情報学講座 平川 晃弘

7：平成30年10月29日

「被験者の募集、組み込みと参加継続」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 安藤 昌彦

8：平成30年11月15日

「生存解析の益確と応用」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 中枿 昌弘

9：平成30年12月11日

「臨床試験の実施」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 鋤塚 八千代

「第2回モニタリング講習会」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 田村 奈津子

10：平成31年1月16日

「安全性入門」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 植田 康平

11：平成31年2月5日

「品質マネジメントシステム」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 植田 康平

12：平成31年3月14日

「知的財産」

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 五十部 穰

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各領域（診療科）において、専門研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	128.2	人
-------------	-------	---

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山内 高弘	血液・腫瘍内科	教授	30年	
岩崎 博道	感染症・膠原病内科	教授	33年	
中本 安成	消化器内科	教授	30年	
濱野 忠則	脳神経内科	准教授	29年	
石塚 全	呼吸器内科	教授	28年	
此下 忠志	内分泌・代謝内科	准教授	33年	
岩野 正之	腎臓内科	教授	32年	
茅田 浩	循環器内科	教授	33年	
五井 孝憲	消化器外科	教授	30年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	准教授	30年	
腰地 孝昭	心臓血管外科	教授	35年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	31年	
横山 修	泌尿器科	教授	37年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	28年	
中井 國博	形成外科	准教授	24年	
松峯 昭彦	整形外科	教授	33年	
松峯 昭彦	リハビリテーション科	教授	33年	
稲谷 大	眼科	教授	24年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	33年	
吉村 仁志	歯科口腔外科	教授	20年	
大嶋 勇成	小児科	教授	34年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	31年	
小坂 浩隆	神経科精神科	教授	21年	
菊田 健一郎	脳脊髄神経外科	教授	28年	
重見 研司	麻酔科蘇生科	教授	35年	
木村 浩彦	放射線科	教授	32年	
林 寛之	救急科	教授	33年	
今村 好章	病理診断科	准教授	33年	

（注）1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 特に無し。 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 特に無し。 ・研修の期間・実施回数 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 <b>2. 現状</b>
管理責任者氏名	医学部附属病院長 腰地 孝昭
管理担当者氏名	総務管理課長 小林 正幸 経営企画課長 竹中 隆宏 医療サービス課長 清水 隆行 医療情報部長 菊田 健一郎 医療安全管理部長 秋野 裕信 感染制御部長 岩崎 博道 薬剤部長 後藤 伸之 放射線部長 木村 浩彦 ME機器管理部長 森岡 浩一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院部総務管理課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)	
		看護記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)	
		検査所見記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)	
		エックス線写真	各診療科	
		紹介状	病院部医療サービス課 (カルテ庫)	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院部医療サービス課 (カルテ庫)	外来診療録は、1患者1ファイル、入院診療録は、1患者1入退院1ファイルでカルテ庫において中央管理している。電子診療録として、1患者1ファイルを医療情報部において管理している。なお、診療録の持ち出しは禁止としている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿		総務部人事労務課
		高度の医療の提供の実績		病院部総務管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績		病院部総務管理課
		高度の医療の研修の実績		病院部総務管理課
		閲覧実績		病院部総務管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績		病院部医療サービス課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		病院部総務管理課及び医療サービス課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部		
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部		

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	病院部総務管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器管理部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院部総務管理課			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理部
		監査委員会の設置状況	病院部総務管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院部 医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部 法務・内部統制課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	病院部総務管理課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院部総務管理課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院部総務管理課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	医学部附属病院長 腰地 孝昭	
閲覧担当者氏名	総務管理課長 小林 正幸	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室	
閲覧の手続の概要		
1. 諸記録の閲覧の申請を担当部署に行う。 2. 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う。 3. 所定の場所（主に管理棟の会議室）において閲覧。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 医療に係る安全管理の基本的考え方  (2) 医療に係る安全管理の体制  (3) 職員研修に関する基本方針  (4) 医療に係る安全確保の改善方針に関する基本方針  (5) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針  (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。）  (7) 相談への対応に関する基本方針  (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（○有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理の指針に関すること。  (2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること。  (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること。  (4) その他医療安全管理の重要事項に関すること。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>(1) 全職員を対象に平成30年7月18日 「福井大学病院の昨日・今日・明日」について研修会を行った。  (2) 全職員を対象に平成30年7月24日 外部講師による「禅ー安全な医療ー」について研修会を行った。  (3) 全職員を対象に平成30年8月23日 「がん治療に関連する安全管理」について研修会を行った。  (4) 全職員を対象に平成30年9月12日 外部講師による「サリドマイド薬害事件の歴史と医薬品リスク管理の重要性」について研修会を行った。  (5) 全職員を対象に平成30年10月30日 「医療安全とチーム医療」について研修会を行った。  (6) 全職員を対象に平成30年11月5日 「日本の移植医療の現状と当院の課題」について研修会を行った。  (7) 全職員を対象に平成30年12月4日 「せん妄について」「摩擦とずれの排除から始める褥瘡予防ケアに関して」について研修会を行った。  (8) 全職員を対象に平成31年3月15日 「今ここで、災害がおこったらどうしますか」について研修会を行った。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（○有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 各部署から報告されたオカレンスレポートは、医療安全管理部にて部署リスクマネージャー並びに現場から速やかに聴き取り調査・分析を行い、原因を究明している。さらに改善を要すると判断された重大な事例については、当該診療科長に是正措置を求め、改善策の有効性を確認・検討し、実施状況を検証している。  (2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。  (3) 毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。  (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。  (5) 日々院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善のための具体的な対策を推進している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関する基本的な考え方</p> <p>(2) 院内感染対策に関する管理体制</p> <p>(3) 職員研修に関する基本方針</p> <p>(4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針</p> <p>(5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>(6) 指針の閲覧に関する基本方針</p> <p>(7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 感染予防対策の確立に関すること。</p> <p>(2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。</p> <p>(3) 感染源の調査に関すること。</p> <p>(4) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。</p> <p>(5) その他感染対策についての重要事項に関すること。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>(1) 全職員を対象に平成30年6月14日「流行性ウィルス疾患」について研修会を行った。</p> <p>(2) 全職員を対象に平成30年7月31日「耐性菌の脅威から免れるために」について研修会を行った。</p> <p>(3) 全職員を対象に平成30年8月1日 外部講師等による「予防接種研修会」を行った。</p> <p>(4) 全職員を対象に平成30年10月29日「多職種で取り組む排尿ケア」について研修会を行った。</p> <p>(5) 全職員を対象に平成30年11月22日「季節性の感染対策」「手洗い、マスク、手袋、正しくできていますか？」について研修会を行った。</p> <p>(6) 全職員を対象に平成31年1月28日 外部講師による「AMR対策アクションプランの現状-HIV診療の課題も含めて」について研修会を行った。</p> <p>(7) 全職員を対象に平成31年3月15日「マスクと手洗いを考える」について研修会を行った。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 感染症発生状況は、感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたICTが日々モニタリングを行っている。また、1週間に1回程度、1ヶ月間で全病棟、患者に侵襲的な手術・検査を行う部署は2カ月で全部署を、院内巡回し、現場確認を行っている。なお、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で改善を依頼し、各部署とのカンファレンスや現場のラウンド等で確認している。</p> <p>(2) 感染制御部員が実施場所を決め、ラウンドを実施している。</p> <p>(3) 部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実施している。</p> <p>(4) ICNが日々細菌室情報をもとに当該部署を巡回し、感染対策の確認と改善指導を行っている。</p> <p>(5) 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたASTが検査データや抗菌薬使用状況を確認し、日々、感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック、抗菌薬の適正使用の推進を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成30年8月23日：「怖がらないで！抗がん薬の取り扱い」（抗がん剤の職業性曝露防止、良好な療養環境の提供を目指す） 「アンチドーピング」（福井国体に向けて、アスリートの投薬に際する注意点を理解し、適切な医療を提供する）</li> <li>2. 平成30年9月12日：「サリドマイド薬害の歴史と医薬品リスク管理の重要性」（薬害について学び、医薬品適正使用について理解を深め、適切な医療を提供する）</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品の安全使用のための業務手順書の作成</li> <li>医薬品の安全使用のための研修の実施</li> <li>手順書に基づく業務実施状況の確認（各部署の自己点検）</li> <li>院内の医薬品使用状況の把握並びに安全性情報の収集・評価・必要な情報の周知</li> <li>未承認薬等の使用の把握と必要性や妥当性に関する検討</li> <li>未承認薬等の使用に関する情報の共有（院内への情報提供）</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：               <ul style="list-style-type: none"> <li>未承認新規医薬品：IML-blue（眼科用色素製剤）</li> <li>適応外使用事例：難治性不妊女性に対するフェマール錠の使用、小細胞肺癌に対するアブラキサン点滴静注用の使用など</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>PMDAメディナビ、SAFE-DI（商用データベースサービス）を活用した情報収集</li> <li>副作用シグナルの自動検知システム（AVS）を活用した副作用早期発見や適正使用への介入</li> <li>医薬品使用状況の把握と適正使用推進を目的とした調査薬品レポートの活用</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 175 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規購入の医療機器に関し、納品時に使用説明を含めた研修を行った。</li> <li>・ 指定されている定期研修対象機器に関して、年間計画を作成し研修会を行った。</li> <li>・ 臨床デモやレンタル機器に対して、使用予定者に対して研修を実施した。</li> <li>・ 新規採用職員を対象とした医療機器の研修を行った。</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要医療機器に関し、年間保守計画を立てて定期的実施している。</li> <li>・ また、必要に応じて定期間隔で点検を実施している医療機器もある。</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脊椎関連疾患である化膿性椎間板炎や腸腰筋膿症の治療用ドレナージとして、適応外となっているピッグテイル型胃瘻用増設キットの使用承認 (2019. 8月末時点で使用報告なし)</li> <li>・ 肥大型心筋症に対する、左室流出路心筋切除時の補助器具として未承認であるGRG (guiding rake gauge) の使用</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メーカーやPMDAから発信されている情報を入手し、必要に応じて医療機器安全管理部会にて報告および改善対策を取っている。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有 (6名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室による国内外の医薬品情報の収集・整理 (PMDA メディナビの活用、SAFE-DI の活用、文献情報等)、調剤時の疑義照会記録のレビュー、あらかじめ定義した医薬品について医師の処方と共に薬剤部に出力されるレポートを活用し状況を確認している。</p> <p>病棟薬剤師からの医局、病棟等カンファレンスにおける情報提供、医薬品情報室による情報提供、さらに必要に応じてリスクマネージャー会議で周知等を行っている。</p> <p>医療安全管理部門カンファレンス並びに医療安全パトロールにて、当該周知状況の確認を行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理部会で承認した「使用承認」情報の共有、医局カンファレンス等で病棟薬剤師が知り得た情報の報告、処方薬の適応等に関する確認依頼により、対応が不十分な事例については、医師に対して必要な手続きの依頼を行うなど対応している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (○有) ・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	○有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (○有) ・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月定期的に全身麻酔下手術症例に関する IC 記載について遵守状況を確認している。</li> <li>・医療者側・患者側の同席者、患者家族の説明時の反応をカルテに記載するように指導している。</li> </ul>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々診療録等の記載内容の確認を行っている。確認の結果指導が必要と判断された事項については、確認実施者から直接当該記録の記載者に連絡し、指導している。</li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（2）名、兼任（18）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（4）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（7）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務</li> <li>報告されたオカレンスレポートの調査・分析</li> <li>3b以上のオカレンスが発生した場合の診療録及びインフォームド・コンセントの確認、オカレンス審議委員会で用いられる資料の作成、並びに議事録の作成・保存</li> <li>オカレンス審議委員会で究明された原因及び改善策等の審議結果についての当該部署への指導</li> <li>各部署リスクマネージャーへの支援、連絡調整</li> <li>医療安全の確保のための対策の推進</li> <li>職員の医療の安全に関する意識の向上の確認</li> <li>手術時静脈血栓塞栓予防策実施、中心静脈カテーテル留置における合併症、静脈血栓塞栓予防行為が行われなかった入院患者の静脈血栓塞栓症のモニタリング実施</li> <li>院内医療安全パトロールを実施し、医療安全の確認事項シートを用いて職員の医療安全の認識を確認している。</li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（10件）、及び許可件数（11件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否決定に関すること。</li> <li>高難度新規医療技術を用いた医療の提供後の確認に関すること。</li> <li>その他高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。</li> </ul>	

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 ( 42 件 )、及び許可件数 ( 41 件 )
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 活動の主な内容 :
  - ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否決定に関すること。
  - ・ 当該未承認新規医薬品等を使用した症例についての確認に関すること。
  - ・ その他未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 274 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 71 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - ・ 影響レベル 3b 以上のオカレンスレポート並びに死亡退院報告は、速やかに病院長に報告している。報告状況の確認として、死亡退院報告については、医療安全管理部が全ての死亡退院患者の診療記録を点検し、当該主治医からの報告状況を確認し、報告されていない場合には当該診療科に適切に報告するよう指導している。また、オカレンスレポートについては、多職種から報告されており、他部署で発生したオカレンスについても関わりのあった他部署からの報告があるため医療安全管理部で発生状況が把握でき、報告すべき職員が報告していない場合には、適切に報告するよう指導している。
  - ・ 部署リスクマネージャーに対して、オカレンス報告の意義、部門リスクマネージャーの責務について指導している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  有 (病院名 : 長崎大学病院 ) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  有 (病院名 : 香川大学医学部附属病院 ) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況
  - ・ 平成 30 年 10 月 18 日 (木) に実施

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「患者相談窓口」を設置し、患者やその家族からの医療安全に関する相談に適切に応じる体制を確保している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全職員を対象に平成30年10月30日「医療安全とチーム医療」について研修を行った。  
(e-learning 実施)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・管理者：平成31年1月21、22日 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成30年度特定機能病院管理者研修(2日間)」受講
- ・医療安全管理責任者：平成30年11月21、22日 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成30年度特定機能病院管理者研修(2日間)」受講
- ・医薬品安全管理責任者：平成30年1月9、10日 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成29年度特定機能病院管理者養成研修(2日間)」及び平成31年1月23日 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成30年度特定機能病院管理者研修(1日間)」受講
- ・医療機器安全管理責任者：平成30年1月9、10日 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成29年度特定機能病院管理者養成研修(2日間)」受講

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

## 規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<b>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理業務に関する知見・経験                    医師免許を有する臨床研修等修了医師であり、かつ、特定機能病院における医療安全に関わる業務の経験と患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有している者</li> <li>2. 病院の管理運営に必要な能力                    診療、教育、研究という大学病院のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を有するとともに、多職種で構成される病院職員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う優れたリーダーシップを発揮できる者</li> <li>3. 病院の経営に必要な能力                    医療を取り巻く様々な外的変化に適切に対応し、医学部附属病院の安定的財政基盤を確立して、病院経営を担う能力を有している者</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法                福井大学医学部附属病院ホームページに掲載</li> </ul>

## 規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法                福井大学医学部附属病院ホームページに掲載</li> </ul>				
<b>管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由</b>				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
安田 年博	福井大学理事	○	病院長候補者選考会議細則第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	/
松木 健一	福井大学理事		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	/

内木 宏延	福井大学医学部長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第2号に基づく役職指定者	
定 清直	福井大学医学科 (共通系・基礎系) 教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第3号に基づき選出	
山内 高弘	福井大学医学科 (臨床系)教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第4号に基づき選出	
長谷川 智子	福井大学看護学科 教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第5号に基づき選出	
大北 美恵子	福井大学看護部長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第6号に基づく役職指定者	
大中 正光	前福井県医師会長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第7号に基づき学長が委嘱する学外の有識者 (医学・医療について豊富な経験と高い識見を有する者)	有・ <del>無</del>
吉田 真士	株式会社福井新聞社 代表取締役社長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第7号に基づき学長が委嘱する学外の有識者 (福井県の諸事情や課題等に精通し、報道関係者として、豊富な経験と高い識見を有する者)	有・ <del>無</del>

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容            病院に関する規則等、決算及び予算配分、経営方針、概算要求事項、診療教授等の称号付与</li>   <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況            審議の概要は構成員及び陪席者から、所属職員等に周知している。</li>   <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</li> <li>・ 公表の方法            福井大学規程集 (公開用) ホームページに掲載</li>   <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ( 有 (無) )</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
腰地 孝昭	○	医師	病院長
山内 高弘 ほか30名		医師	診療科長等
後藤 伸之		薬剤師	薬剤部長
大北 美恵子		看護師	看護部長
安岡 浩憲		事務職員	病院部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
福井大学規程集（公開用）ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容  
病院の管理運営をつかさどり、所属職員を監督する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
副院長は病院長の職務を補佐する。  
副院長の担当：医療安全、教育、研究、診療、経営、看護
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
病院管理 病院長研修  
（H30.8.3 大嶋副院長が代理出席 主催：（公）医療・病院管理研究協会）  
病院管理研修 副院長のための病院管理  
（H30.8.10 冨田副院長が出席 主催：（公）医療・病院管理研究協会）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の業務状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。</li> <li>・ 必要に応じて、監査の結果に基づき、病院長に対し医療安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。</li> <li>・ 監査結果及び意見表明を公表する。</li> </ul> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：福井大学医学部附属病院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
伊藤 透	金沢医科大学 病院医療安全 部長・教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ 法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
草桶 秀夫	前福井工業大 学教授		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・(無)	2
安川 繁博	福井県医師会 副会長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容  
内部統制システム運用規則に基づき、内部統制システムの整備及び運用を推進し、その状況を把握し、重大な問題が発生した場合又は発生のおそれがある場合には、必要な緊急措置及び是正措置を執る。
  
- ・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )
  
- ・ 公表の方法  
福井大学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

<b>開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                (役員会)                毎回、病院長が出席し、病院の経営状況や病院の取組等を説明している。                (病院運営諮問会議)                病院長の諮問に応じて、経営等に関する病院運営の重要事項、病院の診療、教育及び研究に関する重要事項について、審議し、病院長に対して助言又は勧告を行う。</li>   <li>・ 会議体の実施状況 (役員会：年 11 回、病院運営諮問会議：年 2 回)</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )                (役員会：年 11 回、病院運営諮問会議：年 2 回)</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法                福井大学規程集 (公開用) ホームページに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：福井大学医学部附属病院運営諮問会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
安田 年博	福井大学理事	○	/
相田 俊夫	大原記念倉敷中央医療機構 代表理事副理事長		有 <input checked="" type="radio"/> 無
池端 幸彦	福井県医師会長		有 <input checked="" type="radio"/> 無
川田 達男	セーレン株式会社 代表取締役 会長兼最高経営責任者		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
北山 道彦	金沢医科大学病院 病院長		有 <input checked="" type="radio"/> 無
須藤 正克			有 <input checked="" type="radio"/> 無
高山 一夫	京都橘大学現代ビジネス学部 教授		有 <input checked="" type="radio"/> 無
松村 理司	医療法人社団洛和会 総長		有 <input checked="" type="radio"/> 無
山崎 幸雄	福井テレビジョン放送株式会社 相談役		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none"><li>・ 必修研修会で周知している。オカレンス報告システムのトップページに、情報提供受付窓口を掲載している。</li></ul></li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 BSIグループジャパン株式会社 最初の認証取得日 平成15年 9月10日 最新の更新日 平成30年 8月 5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 1. 病院公式ホームページの公開 2. 情報誌「フロンティア」の発行・地域への配布（2回/年） 3. 「病院のご案内」の発行・地域医療機関への配付（1回/年） 4. 福井街角放送による「福大病院まちかどラジオ」の番組内（約10分）で病院スタッフが医療情報を発信（2回/月） 5. 「福井大学病院の得意な治療がわかる本」発刊し、県内主要書店及び院内売店で販売 その他、地域医療機関、図書館、公民館等への配付 6. 地域医療連携部看護師、ソーシャルワーカー及び事務職員が、各診療科における得意な診療のリーフレット等を持参して、福井県内及び石川県加賀地区の医療機関を訪問して、本院の情報提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
--------------------------	-----

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

がん診療推進センター（各診療科）がんサーボードの実施

歯科の周術期における口腔機能の管理（歯科口腔外科と各診療科）

精神障害者における身体合併症の管理（神経科精神科と各診療科）

脊椎脊髄外科ユニット外来の設置（脳脊髄神経外科と整形外科）